ご家族に思春期のお子さんがいらっしゃる方へ

～HPVワクチンの接種は済んでいますか?～

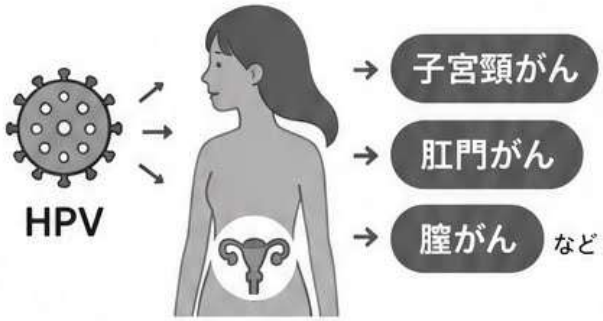


HPVとは?

HPV（ヒトパピローマウイルス）は、性的接触のある女性の場合50%以上が生涯で一度は感染する非常に身近なウイルスですが、子宮頸がん、肛門がんや膣がんなど多くの病気に関わっています。

特に子宮頸がんについては、若い女性患者さんの数が増加しており、約70人に1人くらいの確率で発症すると言われています。子宮頸がんを発病することで、子宮を失ってしまい妊娠ができなくなったり若くして命を落としたりしてしまう方もいらっしゃいます。

HPVは、さまざまな病気の原因になります



ワクチンで予防できます

このようなHPV感染による病気を予防することができる方法がワクチンの接種です。HPVワクチンを接種することで子宮頸がんの約**70～80%**を防ぐことができると言われており、日本でも2013年から**全額公費で定期接種**をすることができるようになりました。

（対象期間を過ぎた場合、原則全額自己負担となり計3回で10万円程度の費用が必要となります。）

子宮頸がんを
約70～80%防ぐ
ことができます



定期接種の対象



小学校6年～
高校1年の女子

- 早めの接種が勧められています。
- 小学校6年のときに自治体から予診票が届くことが多いので、手元に届いたらぜひ接種をご検討ください。

接種の回数

15歳未満で1回目を接種 → 計2回で完了
15歳以上で1回目を接種 → 計3回が必要

副反応について

日本は、過去にワクチン接種後に多様な症状（副反応）が現れた方がおり、全国的に接種控えが広がった影響でHPVワクチンの接種率が世界主要国に比べて格段に低いことが問題になっています。しかし現在定期接種で使われるワクチンは、このような副反応との因果関係は証明されていません。

ワクチンを接種した方の50%以上に局所の痛みや腫れ、頭痛が生じるなど軽い副反応は起こり得ますが、それ以上に子宮頸がんにより若くして尊い命を落とす方を一人でも減らすため、ぜひ接種をご検討ください。



HPVワクチンは、産婦人科クリニックをはじめ当院でも接種することが可能です。

ご希望の際はスタッフにお声掛けください。

林田医院